

令和3年度 下関商業高等学校（定時制） 学校評価書 校長（久保田 力哉）

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標・・・①社会人基礎力の育成 ②確かな学力の育成 ③キャリア教育の推進 ④部活動、学校行事等の充実 ⑤地域連携教育の推進 ⑥学校安全の質と水準の向上 めざす学校像・・・①経済社会の持続的な発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒 ②多様な人々と連携・協力しながら、様々な困難を乗り越えていくことのできる生徒 ③他者を思いやり、社会に貢献しようとする態度や感謝する心をもった生徒 ④激しい時代の変化に対応しながら、主体的に未来を切り拓く力をもった生徒 ⑤郷土に誇りと愛着をもつとともに、グローバルな視野を合わせもった生徒 チャレンジ目標・・・①出席率95%以上 ②進路決定率100%・正規雇用就職率100%、3年間は離職しない進路意識の涵養 ③全商検定3級以上全員取得</p>
--

<p>2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）</p> <p>① 生徒は素直で落ち着いた態度で学校生活を送っている。今年度も生徒に寄り添いながら、彼らの成長を助けていきたい。 ② 生徒の進路意識は高揚している。これまでと同様に、生徒への情報提供をこまめに行い、希望進路の実現に向けたサポートを行いたい。 ③ 生徒は知的好奇心に富んでいるので、学ぶ姿勢を支援して、よりよい自己実現につなげていきたい。 ④ ホームページをリニューアルし、これまでの情報発信を整理するとともに、閉課程に向けて積極的な情報発信を行いたい。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題【各分掌と学年、さらに、教職員全員がしっかりと連携して滞りなく業務を遂行し、閉課程としたい。】</p> <p>① 卒業までを見通したキャリア教育の推進 ② 積極的な情報発信による保護者・地域との連携強化 ③ 社会人基礎力の定着と資格取得の奨励 ④ 生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	社会人基礎力の育成を目指した授業の充実と自己発信力の養成	・最終学年、並びに閉課程年であるので、これまで以上に生徒に寄り添い、生徒の夢の実現に向けて必要な知識・技能の習得を目指す。 ・ICTの活用を踏まえて、コミュニケーション能力や読解力を養うために、各教科横断的に何を、いつ、どうやって指導していくのか全教員が共通理解のもとに工夫する。	生徒アンケートにおいて、 4：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が75%以上である。 3：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が50%以上である。 2：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が25%以上である。 1：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が25%未満である。	4	・最終学年は2人の生徒であったので、マンツーマンに近い学習環境で、対話型の授業等をつうじて生徒に寄り添うことができた。モチベーションの低下を心配していたが、最後まで目標を持ち学習に取り組んでいた。 ・商業科の授業においては、PC・タブレット端末・電子黒板等の電子機器を利用する機会があったが、他の教科や教科横断的に利用する機会がなかったのが残念である。	アンケートにおいて達成度が「4」というのは、評価大です。タブレット端末がもっと積極的に活用できる機会があれば、生徒のこれからの社会において、もっと役に立つことがあったのかも…と考えると少し残念です。	A
進路指導	確かな職業観・勤労観の育成	・年間に3回実施を予定しているキャリア教育において、生徒の実態に応じ、生徒一人ひとりが自らの将来像を構築する上でそれに資する内容となるよう、講師との事前打合せを綿密に行う。 ・各キャリア教育後に感想プリント等で生徒の振り返りを実施することで生徒の自己理解を深めるとともに、十分な生徒理解に基づいた進路指導を推進する。	生徒アンケートにおいて、 4：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が8割以上である。 3：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が5割以上である。 2：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割以上である。 1：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割未満である。	4	・コロナ禍にもかかわらず、今年度も年間3回、各学期に外部講師を招聘し進路ガイダンスを行うことができた。1学期は山口しごとセンターによるビジネスマナー講座、2学期は本校全日制卒業生 前下関市長 中尾友昭氏による講演会、3学期は下関市消費生活センターによる消費者講座を実施した。生徒アンケート（回答者2名）では「職業や勤労に関する理解が深まった」という問いに対して、それぞれ「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、成果があったものと思われる。	生徒の実態に応じたキャリア教育を実施することにより、生徒の達成感が高まって、評価に表れていることと見えます。きめ細やかな教育の姿勢を見ることが出来ます。	A
	進路希望達成率100%	・生徒の適性と希望に応じた、進路に関する情報提供を的確に行う。 ・各種機関等との連携を十分に図りながら、キャリアカウンセリングを行う。	4：進路希望達成率100%であった。 3：進路希望達成率80%であった。 2：進路希望達成率60%であった。 1：進路希望達成率60%であった。	4	・担任からの情報、日頃の生徒との会話等を通して、生徒の希望する進路が実現できるよう対応を試みた。それぞれの希望や状況に沿った、見通しの持てる進路決定となったと思われる。		
生徒指導	教育相談をさらに充実させる。	生徒とのふれあいを多く持ち、生徒が学校生活を送る上で抱える悩みを解決するよう支援する。	4 全く支援の必要性がなかった。 3 支援が功を奏し、解決につながった。 2 1名について支援したものの、解決できなかった。 1 2名について支援したものの、どちらも解決できなかった。	4	在籍者数は2であるが、両名とも目標をもって日々の学習その他に励んでくれた。これは生徒個人の力のみならず、担任をはじめ他の教職員の細かな助言等による支えがあったからに他ならない。	生徒に寄り添った指導・支援が出来たことと見えます。生徒と先生方との親密で丁寧な指導があったことと見えます。	A
保健体育	規則正しい生活リズムの確立	ホームルーム活動をはじめ、授業や全体指導の場を通じて、生活規律の確立の重要性を理解させるとともに、養護教諭との連携を図り、気になる生徒への健康相談を適宜実施する。	生徒アンケートにおいて、 4：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が8割以上である。 3：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が6割以上である。 2：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割以上である。 1：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割未満である。	4	・定時制の生徒は、昼間働いているため、規則正しい生活リズムの確立は、学校生活において最も重要な課題である。在籍の2名は、遅刻や欠席もなく、学業と仕事を両立しており、年間を通じて規則正しく生活できている。充実した学校生活を送ったと言える。	生徒の評価、達成度、診断・分析、どれを見ても、充実した学校生活を送られたことが分かります。卒業後の活躍が楽しみになる程です。	A
業務改善	学校の組織等	・生徒減にともない学校行事や校務分掌業務等を見直す。	4：十分な取組ができた。 3：概ね取組ができた。 2：低調な取組であった。 1：全く取組ができなかった。	3	・在籍生徒2名という今年度の状況を踏まえて、各分掌とも業務の見直し等について臨機応変に対応したことにより、学校行事や校務分掌業務をスムーズに遂行できた。		
	日常的な業務		4：すべての行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 3：ほとんどの行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 2：早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた行事はあまりなかった。 1：早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた取組はまったくなかった。	3	・今年度の学校行事は、新型コロナウイルス感染症対策のため、予備金は行えなかったが、その他の行事等は、早めの企画・立案によって、円滑に実施できた。		
	学校行事等の早めの企画・立案と実施後の振り返りの実施	・学校行事等を時間的な余裕をもって早めに企画立案するとともに、実施後の振り返りを行い、より教育効果が上がるよう改善点を見出す。		4	・時間外在校等時間は、月平均4.2時間であり、昨年度より短縮している。そして、長期休業中の時差出勤の取得も積極的に行われている。さらに、年次有給休暇取得の奨励や、ストレスチェック制度の活用によるセルフケアを促すなど、教職員の健康管理についてしっかりと配慮している。概ね「ワークライフ・バランス」が実現した職場環境と言える。		
	勤務状況	・年休取得の示唆・奨励や定時帰宅を積極的に促し、時間外在校等時間を減らし、「ワーク・ライフ・バランス」を実現する。	4：時間外在校等時間の平均が月10時間未満であった。 3：時間外在校等時の平均が月20時間未満であった。 2：時間外在校等時の平均が月30時間未満であった。 1：時間外在校等時の平均が月30時間以上であった。	4			

<p>6 学校評価総括（取組の成果と課題）</p> <p>【学習指導】 生徒の知的好奇心を喚起し、問題解決に取り組む姿勢を身につけることに留意した。ICT活用で成果を上げることができなかったのが、課題である。 【進路指導】 各学期の外部講師招聘によるキャリア教育では進路意識の高揚を図ることができた。また、生徒へのきめ細かな進路情報提供・支援を通して、希望の進路実現に資するものがあったと考えている。 【生徒指導】 良い生徒に恵まれ処罰等による指導をすることはなかった。人権に係る事柄、インターネットによる被害や加害、薬物の乱用防止、交通安全指導等年間を通して指導してきた。今後も良き市民であることを望むところである。 【保健体育】 生徒は規則正しい生活リズムを確立しており、このことが充実した学校生活につながっている。</p>

<p>7 次年度への改善策</p> <p>【学習指導】 【進路指導】 今年度で閉課程のため次年度はありません。 【生徒指導】 【保健体育】</p>
--